

道草で考え中

第10期 OG 笹本 理乃

第10期生として小野ゼミに在籍しておりました笹本と申します。大学卒業後、インターネット広告を中心に仕事をして、10年ほど経ちました。人生に変化がなさすぎて、OB・OG 会誌のネタが本当になかったもので、卒業後初投稿です。すみません……。海外ネタができたので、投稿します。

私は幸運にも2020年に感染症が流行するまで「自分がいままで何気なくやっていたことが、突然長期間できなくなる」ことがありませんでした。健康上の問題があったこともなく、災害があっても短期間の影響のみで長期間に及ぶことはありませんでした。外出自粛などの行動制限が続く中で、やってみたいことはできるうちに挑戦しておこうと思うようになり、英会話の苦手意識の克服と行動制限で偏っていたインプットを拡張しようと、2022年の冬、フルタイムの仕事を辞めてロンドンに語学留学をしました。

半年ほど住んでいたフラット（シェアハウス）は、ロンドンの西側にあるシェパーズ・ブッシュ駅から更にバスで10分ほどのところにありました。違う国から来た年齢も仕事も様々な男女6人での共同生活です。3階建ての建物に、1つの広いキッチン、2つのバスルーム、そしてそれぞれに個室があります。この書き方だとキラキラしたリアリティショーが始まりそうですね。実際は、築年数がだいぶ経った古い建物で、滞在中も水道管が爆発してキッチンに上階からの水が豪雨の如く降り注いだり、2つあるうちの1つのトイレが定期的に壊れたり、それをフラットメイトが放置したりして大変なことになりました。全然キラキラしていませんでした。



珍しくいい天気だった日のフラットの庭と
役割を果たしていない机

学校はフラットから歩いて20分くらいのところにありました。午前中はフラットで夜中に日本からメールで送られてきた仕事をし、昼過ぎに学校に向かっていました。同じコースには、ポルトガル語圏やスペイン語圏、ロシア語圏を中心に、同年代から60歳くらいの方まで幅広い年齢の方が在籍していました。午後は自由時間になるので、午前中に開かれる授業のほうが人気で、若い人が多い傾向があったようです。

滞在中、1ポンドが180円近くなることもあったので、節約を心がけていたものの、時間には融通が効いたので、美術館を回ったり、当日券を安く手に入れてミュージカルを観に行ったり、フットボールの試合を観に行ったりしていました。いつでもオフィーリアが無料で観られ、ミュージカルの演目もよりどりみどりで都市の豊かさを感じました。男子だけでなく女子フットボールの試合も観に行っていたのですが、

Women's FA Cup 決勝は7.7万人の観客がウェンブリー・スタジアムに集い、人気にびっくりしました。個人的な感覚ですが、プレミアリーグなどの男子フットボールの試合を観に行くと、野次が飛び交っていてなんとなく競馬場にいるような感覚に近かったのですが、女子の試合は観客の多くが家族連れや女性のグループで真剣でありつつも和やかでした。選手も、観客のサッカー少女たちに積極的にファンサービスをしていて、裾野が更に広がる予感しかありませんでした。大勢のポジティブな空気が漂う空間でした。

食事に関しては、色々試行錯誤がありました。とにかく高かったです。わかりやすいところかというと、ロンドンにも博多ラーメンの一風堂があるのですが、ラーメンと餃子で一人20ポンド(3500円)は超えていました。外食のときは、美味しいレストランを血眼で探しました。ちゃんと探せばありました。当然自炊が増えるわけですが、米農家に生まれ、朝食は和食派の私が白米以外を中心に日々の献立を組み立てるのは挑戦でした。一応白米は入手できるのですが、他の主食のほうが圧倒的に安価でした。限界のときは、レンチンしたオートミールに溶き卵を入れたお粥っぽいやつに、どのスーパーマーケットにも売っていたspring onion というわけぎっぽいやつを刻んで入れて、和食っぽ何かを食べていました。限界飯すぎる。

そんなふうに関りを過ごしているうちに、滞在の期限である半年が来てしまいました。当初は滞在期間終了後に、ビザが取りやすい他の国に移ることも考えていたのですが、米パワーも金パワーも心もなくなり、予定通り日本に戻ってきました(計画性や頑張る力がなかったとも言う)。

これらの経験が一体何になったのかは現時点ではわかりません。MBAを取得したわけではないですし.....。人生の正道ではなく道草だったという結論になるような気もしますが、金銭的・時間的コストを考えるとすごく凹みそうなので深く考えないようにしています。ただ、新しい文化に触れながら場数を踏むことで英会話に対する苦手意識が多少は減ったことや、新しい出会いが英語での仕事につながったこと、欧州在住の友人に会いに行くことができたことは収穫でした。

日本へ戻ってきた後もゆっくり過ごしていたので、小野ゼミにゆかりのある方にお会いする機会も多々ありました(同期以外だと、第9期の山口健人さんや第11期の山田彩華さんなど)。

小野ゼミに大学院生として在籍していた白石秀壽さん(現・鳥取大学 准教授)にお声がけいただき、大学生向けにインターネット広告についての講演をするために鳥取へ足を運ぶこともできました。普段、大学生と会話することも、もちろん大学で話すこともありません。業界の端で数年過ごした程度でも、改めて俯瞰して業界を見ると変化がたくさんあったことに気がつけました。白石さん、貴重な機会をいただき、ありがとうございました。



鳥取大学で講演する著者

今年もまた新たな変化が起きると思いますが、外から眺めるのではなく、中に飛び込む勇気をもっていたいと思います。やりたいことはやっておきたい。当面は健康に気をつけつつ、衣食住を整えて、やりたいことに挑戦できる余裕を持った状態を目標に過ごしたいと思います。